偉大なる鏡の力

ジョン・ウエインの西部劇。

酒場のカウンター。目の前の鏡に映った無頼漢が拳銃を抜こうとするしぐさに振りむきざまの一発！・・・。そしてブルース・リー。十数枚の鏡の間での鉄拳での決闘・・・。素晴らしい！スクリーン上での鏡を使ったアクションは、この２篇が印象に残る。

尤もかがみと言う存在は、余りにも身近であり日常茶飯事で使用しているもので特に感銘は無いが、ジックリ考えてみると数多くの場面で意外と大きな役割を果たしているものである。

その一つに最も親しかった友人が不慮の交通事故で他界した。思い返せば幾度となく激しい議論を戦わせ、又お互

徳永　　徹

いに酒酌み交わしての歓談は楽しいものであった。惜別の情は尽きない。そして止めどなく溢れる涙。後で鏡に映った自分の顔を眺め「これ俺の顔か！」と思うくらいクシャクシャになったのを眺め驚いたのを思い出す。

そしてもう一つ。ピンク・レディーの全盛時代。中学２年生だった妹が、同級生の隣の女の子と組んで、母の三面鏡を前にしてのフリの特訓。あの軽快なリズムとフリがなかなか合わず、毎日の猛特訓。

私もついついひきこまれて、ああだ、こうだとフリの特訓指導をやって半年くらい。そして地域の懇親会でのステージに出演となった。本人たちよりも傍で観ている私の方がハラハラドキドキ。お蔭で「優勝」の栄冠に輝いた！最高！あの感動は今になっても瞼をよぎる。あの時の三面鏡は、今はどうなったんだろう。せっせとフリを行う妹たち。そして傍で見守る私の姿がシッカリ刻み込まれている筈なのだが、遠い昔の思い出が甦る。

　鏡の秘めたる力は無限である。そこには現実以外のものは何も存在しない。只、不運な事態で打ちのめされた我が顔、歓喜に鼓舞するときの満面の表情は、其の儘忠実に反映されていてまさしく心の鏡である。これからも毎日覗き込む鏡に叱咤激励されて、余生を楽しく過ごしたいものである。

※テーマ「かがみ」